

## はじめに

### 『つながり』のある教育に ～卒後を見据えた学び～

本校は、開校12年目を迎えました。学校の教育目標『学びを楽しみ、よりよく生きる人を育てる』を掲げ、幼児児童生徒が、卒後、自分らしく、自らを輝かせ、多様な社会の中で多様なかかわり方を経験しながら生き生きと暮らすことを願い学校の教育活動を進めております。『人とかかわりの中で自己有用感を高め、社会性のある子ども』を育てることは、開校当時の酒田特別支援学校のつながりのある教育方針であります。

特別支援学校学習指導要領における改訂の一つに、『自立と社会参加に向けた教育の充実』が挙げられており、子どもたちにとって必要な資質・能力を、成長段階、学部  
の連続、計画的・組織的なカリキュラム・マネジメントにより、進めていくことが重要とされています。卒業後を見据えた幼児児童生徒にとって必要な資質・能力は何か、一人一人の確かな学びをどのように進めるか、学びを広げ、定着し、その学びを将来どのように活用するかを、我々教員は熟考し、学校教育全体で取り組んでいく必要があります。

今年度よりスタートした、学校研究『学びがつながる授業づくり』では、幼児児童生徒一人一人の「縦」の学びの成長と、学んだことを「活かす」「次につなげる」という「横」の学びの広がりが、卒業後の生き方を豊かにすると信じ、『つながり』を意識した授業づくりの研究を進めてまいります。この度の「授業研究実践集」には、今年度の研究の足跡を収録いたしましたので、忌憚ない御意見や御指導、御助言をいただければ幸いです。

最後に、公開研究会で御助言をいただきました、県立鶴岡養護学校の戸屋 学校長先生、県教育センター特別支援教育課 森 豊課長、県立山形聾学校 齊藤 順子教頭先生、山形大学附属特別支援学校 片桐 睦教頭先生に心より感謝申し上げます。

令和5年3月

山形県立酒田特別支援学校  
校長 三宅 浩子